



## 全国大会報告「探究の見つめなおしと創造」

東京都小学校生活科・総合的な学習教育研究会

副会長 宮崎倉太郎

(武蔵野市立境南小学校長)

第29回全国小学校生活科・総合的な学習研究協議会千葉大会(第22回関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会千葉大会)は、新型コロナウイルス感染症の影響により、11月13日の午後に開催されました。

感染防止の観点から、公開授業研究は中止となりましたが、研究主題「はばたけ！未来を創る子供たち～探究を見つめなおし 探究を創造する～」のもと、新学習指導要領全面実施の年に全国大会が実施されたことは大きな意義があります。

### 1 研究主題から

今大会の研究主題は、新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、これまでの生活科・総合的な学習の時間(以下「総合」と表記)の実践・研究の重要性を意識したものです。

「はばたけ」では「力強く生き、未来や理想に向かって飛び立つ姿」を、「未来を創る」では、「予測困難な未来を生き抜き切り拓く力、新しい未来を創造していく力」をイメージしています。副題では、千葉県が研究の根幹に置いてきた『探究』の実現」について、これまでの実践を探究の視点から見つめ直して精査し、アツプデートを図ることをねらっています。これは、東京都の研究会が分科会を再編し、生活・総合のよりよい実践という原点に立って研究をすすめてきたこととも重なり感じました。

### 2 研究の重点から

研究の重点としては、特に以下の2点を通して研究主題に迫った点が特徴的でした。

(1) カリキュラム・マネジメントの充実  
カリキュラム・マネジメントの3側面のうち、「カリキュラム・デザイン」について、生活・総合それぞれの学習過程(プロセス)に着目して見つめ直すことを通して、学習の質的改善を図ろうとした。

(2) 学習過程における一つ一つの学習活動の充実  
生活科では、「体験→表現」の往還における「ねらい」と「方法」の適切さを吟味した。総合では、特に「整理・分析」における児童の話合い活動(協働的な学習)の充実の観点から、思考ツールなどの「手立て」における教師の意図と実際に機能したのかどうかについて吟味した。

3 課題別分科会、シンポジウム等  
今大会では、一部の課題別分科会をZOOMの活用で実施するとともに、開会式、基調提案、シンポジウムを、約1ヶ月間インターネット等で視聴することができるなど、新たな試みがありました。課題別分科会では、東京都からE分科会の藤本道生先生(武蔵野・境南小)が提案者、荒井雄一校長先生(青梅・成木小)が助言者として発表しました。また、シンポジウムでは、研究主題をテーマとして、渋谷一典・加藤智・田村学の各先生によるパネルディスカッションが行われました。

何年もかけてきた計画を大きく変更した千葉県での先生方のご苦労は計り知れませんが、感染症下における新たな研究会の在り方を探り全国大会を実施していただいたことに、心からの敬意を表したい大会となりました。